

第5回 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成20年12月15日(月) 10時00分～12時00分

2 場 所 高洲コミュニティセンター 講習室2

3 出席者

(1) 委 員

*欠席委員：徳留委員、安達委員、原田委員、篠塚(正)委員

*代理出席：松岡委員の代理として木村氏(高浜第二小学校保護者と教職員の会副会長)

大島委員の代理として鳥居氏(高浜中学校保護者会副会長)

花見委員の代理として矢野氏(高洲第一中学校保護者会副会長)

(2) 事務局 山崎課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 11人

4 議題

(1) 高洲・高浜地区の適正配置シミュレーションについて

(2) 次回開催日時・場所について

5 会議資料

(1) 資料1 高洲・高浜地区の適正配置【参考シミュレーション】

(2) 資料2 高洲・高浜地区学区図

(3) 資料3 今年度推計による高洲・高浜地区の小・中学校の状況について

(4) 資料4 学校の適正規模について

6 議事の概要

(1) 高洲・高浜地区の適正配置シミュレーションについて

資料1「高洲・高浜地区の学校適正配置【参考シミュレーション】」及び資料2「高洲・高浜地区学区図」をもとに、協議を行った。

(2) 次回開催日時・場所

平成21年2月2日(月) 午前10時から12時、高洲コミュニティセンターにて開催することとした。

7 学校見学会の報告

〈事務局〉

1月7日に行われた学校見学会は、高洲第三小からスタートし、高洲・高浜地区の小中学校を見学しながら地域を歩いた。通学路の状況や小学校の授業風景、創立30周年記念行事の準備を行う高浜中の生徒の姿を見ることができた。見学会に出席された委員の皆さんには、後ほどその時のご感想等もお話しいただけるとありがたい。

8 発言要旨

(1) 高洲・高浜地区の適正配置シミュレーションについて

ア 統合に伴う不安について

〈池田議長〉

前回の協議会で、保護者代表の委員の方から、「統合により学級数が増えるのは良いが、学級の人数が増えることについては不安がある。」「教員の数を減らさずに統合することはできないのか。」という意見があった。この点について、教育委員会としての考え方をもう一度説明していただき、保護者代表の皆さんからご意見・ご要望をいただきたい。

〈事務局〉

・それぞれの学校の統合前の教員数を単純に合計した人数よりも、統合後の教員数が少なくなることは確かである。しかし、1校当たりの教員数は増えることになるので、反対に目が行き届くことになるだろう。他の地区の地元代表協議会のある委員から「1人で3人の子どもをみるよりも、2人で6人をみた方が目が行き届く」といった意見があったが、まさにそのとおりで、複数の教員で指導できれば、興味・関心や性格が異なる子どもがいても、それぞれに応じた指導ができる。また、学年に複数の学級があれば教員同士で助け合い、互いの学級の状況を把握しながら子どもたちを指導することができるので、むしろ目が行き届く状況が生まれることになるだろう。学校行事の企画・運営についても、学年1学級では、全ての仕事を1人の教員がやらなければならないが、複数の学級があれば役割分担ができ、教員1人にかかる負担は減ることになる。学校では、子どもたちへの指導以外にも、授業研究、備品整備、統計処理や就学援助事務等、やらなければならない仕事がたくさんあるが、多くの教員がいれば分担して負担を減らすことができる。

・また、統合校の教員の内訳をみると、小規模校では配置が難しい専科担当の教員が配置できるようになる。専科担当教員がいることにより、その教科の特性に応じた指導ができ、子どもたちの教育には非常に効果がある。この協議会でも、「専科担当教員がいることにより、学校の雰囲気明るく感じるし、子どもたちにとって非常に効果的だ。」という意見もあったと思う。

・「実施方針」には、統合に伴う環境の変化等に対応するとともに、きめ細かな指導を行うために、教員を増置することが示されている。統合校の花島小の実績としては、県から統合増置として1年目2人、2年目に1人の教員の加配があった。花島小では、増置教員を学級担任ではなく少人数指導教員として活用し、効果が大きかったと聞いている。統合増置教員は県費負担の教員であり、県の基準で配置されるが、市としても、非常勤の少人数学習指導教員を配置し、ティーム・ティーチング等の少人数指導が行えるようにしていきたいと考えている。

・現在、千葉市では全市的に、小学校1～3年生において36人学級が生じた学年に1人の少人数学習指導教員を配置している。統合校へは、統合に伴う環境の変化を和らげるために、現行の少人数学習指導教員の配置基準を緩和することを検討していき、バランスの良い教員配置や、統合前の学校の状況をよくわかっている教員の配置等を行っていきたいと考えている。保護者の方々には、統合に対してどのような不安があり、また、市に対してどのような対応をしてほしいか、ということをお話していただきたい。それを参考にし、統合校へどのような配慮ができるかを検討していきたい。

〈池田議長〉

保護者の代表の委員から、ご意見・ご要望をいただきたい。また、学校見学会に出席した方は、その時の感想等も併せてお願いしたい。

〈高洲第一小学校保護者会委員〉（高洲第一小）

学校見学会で実際に通学路を歩いてみて、各学校同士はそれ程遠い距離ではないのかもしれないと感じたが、途中で信号のない横断歩道もあり、やはり学校は近いほうがよいのではないかとも思った。また、いろいろな学校があるということが、実感としてわかった。

〈高洲第二小学校保護者会委員〉（高洲第二小）

学校見学会では、実際に授業風景を見ることで各学校の様子を知ることができ参考になったが、休み時間に子どもたちがどのように遊び、子ども同士でどのようにコミュニケーションをとっているのかということも見たいし、今回行けなかった学校も見たいと思うので、またこのような学校見学会を企画していただきたい。

統合により学級数が増えることについては、保護者会役員を対象にアンケートを実施したところ、「現在のように学年に1学級は少ないと思うので、学年に学級が増えることはよい。その際には、1学級の児童数は25～30人程度で編制するのがよいのではないか。」という意見が出た。

〈高洲第三小学校保護者会委員〉（高洲第三小）

学校見学会は、高洲第三小からスタートし小規模校へ向かうという流れだったので、学校規模による雰囲気の違いがよくわかった。「小規模校のアットホームな雰囲気がよく、それを統合によって壊されたくない」という気持ちもわかるが、高浜第二小のように、昔は適正規模だったが現在は小規模になっているような学校は、校舎が大きいのに対して子どもが少なく、寂しく感じた。高浜第一小は適正規模だが、とてもゆったりとした感じを受けた。

統合して通学路が変わることについては、セーフティウォッチャーの方との連携や保護者の指導により、子どもたちの安全は確保できるのではないかと。近くに商業施設が多い高洲第三小の周りが一番危険かもしれない。高洲第三小で行われている少人数指導は、子どもたちにとって効果的な指導方法だと思うので、統合することにより学校へ配置されることは、よいことではないか。学級編制の基準としては、子どもの体が大きくなる小学校6年生や中学生は、多くて35～36人が、適当な学級人数なのではないか。また、参考統合シミュレーションについては、保護者から「シミュレーション3の高洲地区と高浜地区とそれぞれで統合するパターンが、現実的で保護者の賛同を得られるのではないかと。」という意見が出た。

〈高浜第一小学校保護者会委員〉（高浜第一小）

学校見学会には参加しなかった。保護者を対象にアンケートを実施し、310家庭のうち、37%の115家庭から回答があった。まず、「統廃合についての話し合いが行われていることを知っているか」という質問に対しては、「知っている」が86%、「知らない」が14%だった。次に、「統合に賛成か」という質問に対しては、「賛成」が51.5%、「反対」が15.5%、「わからない」が33%だった。通学路が変わることについては、「賛成」が24.3%、「反対」が37.4%、「わからない」が38.3%だった。統合についての意見別に、通学路が変わることについてどう思うか質問したところ、「統合には賛成で通学路が変わること」について、「賛成」は26人、「反対」は13人、「わからない」は20人だった。「統合には反対で通学路が変わること」について、「賛成」は0人、「反対」は17人、「わからない」は1人だった。「統合についてはわからないが通学路が変わること」について、「賛成」は2人、「反対」は13人、「わからない」は23人だった。保護者からは「自分の学校は適正規模だから適正配置の必要はないが、小規模である周りの学校には必要ではないか。」「高浜地区の通学区域が広範囲になるシミュレーション1は避けたほうがよいのではないか。」「学級の人数は、現在の1学級29人程度でよいのではないか。」「シミュレーション3がよい。」「高洲・高浜地区を東西に分けた形の学区がよいのではないか。通学するとき、バス通りを渡らせたくない。通学路の安全が確保できない統合は心配である。」「目黒区では学校選択性だったので、千葉市でも同様に学校が選択できればよいと思う。」という意見が出た。

〈松岡委員代理木村氏〉（高浜第二小）

高浜第二小は、この地域の中でも小規模の学校なので、適正規模の高洲第三小に活気があることを肌で感じる事ができた。高浜第二小には、特別支援学級があるが、他の学校にも、その学校の特色に応じた学級があることがわかった。外国人の多い高浜第一小は、コミュニケーションが難しいのではないかと考えていたが、日本語指導学級があり、しっかりとした対応をしていることがわかった。

高浜第二小は、磯辺地区の協議会にも関わっているので、磯辺地区のシミュレーションが示されてから、保護者からの意見を集約しようと考えている。保護者会役員の中では、「統合をする・しない」ではなく、どのような形で統合するのが子どもたちにとってよりよくなるのか、高浜第二小としての方向性を考えている保護者のほうが多いようである。中には、「高浜第二小は子どもが少なく寂しい。」という意見の保護者や、統合して海浜松風通りを渡って通学するようになることを心配している保護者もいる。高浜第二小は、学校規模が小さくても頑張っているが、他の学校と交流する行事や大会があった場合、大きい学校の雰囲気呑まれて緊張してしまう子どももいるようで、学校規模による精神面での違いというものもあるのだろうと思う。統合にあたっては、いろいろなことに配慮しながら考えていかなければならないだろう。

〈渡辺委員〉（高浜第三小）

学校見学会に参加した保護者会会長からは、「高洲第三小は、子どもの数の多さに驚いた。校舎に圧迫感があり、ざわつきを感じた。高浜第二小は、子どもが少なく寂しく感じた。」と聞いている。学校の雰囲気などを実際に目で見て肌で感じる事ができるよい企画だと思うので、また、このような企画があったら自分も参加したいと思う。

保護者にはまだシミュレーションは提示していないし、どの程度の保護者が適正配置に関心を持って把握しているかはわからない。自分の周りの保護者からは、「統合もやむをえないだろう。もともと同じ学校だった高浜第二小と統合するのではないのか。」ということ聞く。統合したほうがよいとは思っているようではあるが、通学路が変わることへの不安等も聞かないので、統合に対する実感が無いのではないか。保護者へのアンケートは、それぞれの学校で個々に行うのではなく、高洲・高浜地区で統一した質問事項で同時期に行いたいと思う。そうすれば、保護者への伝わり方も同じになるだろう。事務局から、保護者へ質問してほしい事項を示していただきたい。

〈花見委員代理矢野氏〉（高洲第一中）

小学校は統合の方向で話が進んでいるようであるが、中学校の統合についても小学校と同時に進めていくという理解でよいか。また、特別な加配である非常勤の少人数学習指導教員の配置は、小学校では36人以上の学級に必ず配置するのか。

〈事務局〉

「中学校は2校を1校に」という方向性は示しているが、統合するのか、また、小学校と同時に行うのか、ということについては、地元代表協議会で話し合っただけで決めている。教員の特別な加配については、県で加配できる基準と市で加配できる基準とがある。市としては、小学校1～3年生で36人の学級が生じた学年に、教員免許のある非常勤の少人数学習指導教員を配置している。正規の教員は県費負担の職員であり、県の基準で県が配置している。

〈花見委員代理矢野氏〉（高洲第一中）

教育の質を良くするためには、学級の人数だけではなく、先生の資質の問題もあるだろう。先生方の事務処理量が多くなっていると報道されている。事務量を減らし、先生が生徒と接する時間を増やしてほしい。中学校の統合について、保護者からの意見はあまりないが、生徒の状態を見て慎重に考えていただきたい。中学生は多感な年頃で、近隣の中学同士ということで、小さいさかい等の話も聞く。もし、統合するのであれば、行事など一緒に行い、お互いを知る機会を増やすなど準備を整えてからにしてほしい。保護者には、高浜中と統合するという実感はないようである。

〈大島委員代理鳥居氏〉（高浜第一中）

前回の協議会で、「適正配置について多くの保護者は他人事感覚だ」と発言したが、それは、適正配置に関心がないのではなく、地域の方々を信頼している、ということである。中学校については、子どもたちは多感な時期なので、慎重に協議していただきたい。また、学校は災害時の避難所になるので、統合して学校が少なくなることは心配である。

〈江幡委員〉

統合して通学路が変わることを心配している保護者が多いようだが、各家庭や学校において、子どもたちに交通安全ルールを教えていけばよいのではないのか。心配する気持ちも理解できるが、地域としても、セーフティウォッチャー等で協力して子どもたちを見守ってきたい。

〈岩村委員〉

通学路が変わりバス通りを渡らせるようになることが心配だという保護者の気持ちもわかるが、大きい道の方が子どもたちは信号を守るので、心配ないのではないか。信号を無視して横断しようというのは、大人の考えだと思う。それよりも、信号や横断歩道のない狭い道の方が心配だと思うが、それも、セーフティウォッチャー等で地域の方々が通学路を見守ってくださっているので、心配しなくともよいのではないか。

〈比護委員〉

子どもに大きい道路を渡らせることが心配だという保護者の気持ちはわかるが、その道を渡って塾へ通ったり、買い物に行ったり、子どもたち同士で遊びに行ったりしているのだから、あまり心配しなくてもよいのではないか。

学校見学会に参加した際には、いろいろなことを見ることができたので、今回参加できなかった委員の方にも、実際の学校を見ていただきたい。百聞は一見に如かずで、実際の姿を知らないと、想像だけで話すことになってしまう。学校によって、雰囲気ももちろんだが、施設面でも様々な学校があると思った。やはり適正規模の高洲第三小と高浜第一小は、賑やかで明るく活気に満ちていると感じた。小規模の学校は、大きい校舎に少ない人数なので寂しいように感じた。また、校舎に対して先生方の人数も少ないので、掃除が大変だろうし、外から不審者が入ってきてきても気付きににくく、防犯上心配だという話も聞いた。小規模校の中には、1学級17～18人で、うち女子が4人という学級があった。そのように少ない人数の中からしか友達ができないというのは、可哀相なことだと思う。

子どもの数が少ない学校では、いちいち言葉で説明しなくても、「この子はこうだろう」ということがわかり、積極的にコミュニケーションをとらなくてもすむ状況で、言ってしまうば、ぬるま湯の人間関係ではないだろうか。そのような環境で育った子どもたちが、今日のような競争社会、グローバルな世界で、進学し社会に出ていく過程において、様々な人間に出会ったときに、自分の考えや持っている力をしっかりと発揮し、コミュニケーションがとれる人間に成長していけるか、心配である。私の好きな言葉に「人間は、人間を浴びて、人間になる」というものがある。子どもというのは、いろいろな子どもと揉まれていく中で成長していくものだろう。そのように考えれば、統廃合についての答えは、自然と見えていないか。大勢の子どもや多くの先生に出会う環境の中で、子どもにはより多くの機会を与えてあげたい。

〈岩村委員〉

私は青少年相談員を務めており、いろいろな学校の子どもたちを集めて活動する中で感じることもある。高洲第二小のように1学年1学級という小規模校の子どもたちは、最初は自分たちだけで固まっていたとしても活動が進むにつれて他の学校の子どもたちと仲良くなり、知らない子どもたちと出会えて、楽しそうである。高洲第一小、高洲第二小、高洲第三小の子どもたちを対象にした料理教室を開催したときは、学校を混ぜてグループを作って活動することに保護者は心配していたようだが、子どもたちは違う学校の子と友達になれたと嬉しそうに話してくれた。子どもたちは、家と学校とは違う面を持っているし、様々な可能性も持っているのだから、いろいろな子どもとの触れ合いが大事なのではないか。

〈比護委員〉

統合しなくとも、地域で交流する必要があると思う。こんなに近くに学校があるのに、自分の子どもの通う学校以外の状況は知らなかった。統合の準備段階においても、普段から学校間の交流をして互いを知ることが必要なのではないか。

〈多田委員〉

子どもたちは順応性があるだろう。重要なのは、統合して子どもたちがよりよい教育を受けられるようになるかということである。統合に対して不安に思うのは、今よりもよい教育が受けられるようになるのかということ、つまり、教員の質や人数の問題である。統合した学校への配慮を具体的に示していただきたい。今の配置基準のまま統廃合するのではなく、統合校への配置基準等を考えていただきたい。仮に高浜第二小と高浜第三小が統合した場合、教員の人数は、統合前の人数を合計したものと同数にしていただきたい。そうすれば、保護者の不安は減るのではないか。それから、外国人の子どもが多い学校にどのような援助ができるのか、ということも重要な問題だろう。

〈大和委員〉

学校見学会に参加する前は、授業を見ることまでは必要ないと思っていたが、実際に参加し授業風景を見てみて、子どもの少ない学校と多い学校との違いがわかった。人数が少ないからアットホームというわけではなく、高洲第三小のように活気がある学校こそ、本当にアットホームな学校というのではないか。少ない人数の中で育った子どもたちが、社会に出てから多くの人間としっかりとコミュニケーションがとれるのか、心配である。子どもは親だけで育てるのではなく、多くの子どもや先生、地域とのかかわり合いの中で育てていくものと思う。高洲地区と高浜地区との地域差は、現実としてあると思う。

〈高洲第二小保護者会委員〉

参考統合シミュレーション1、2、3のうち、最も人数のバランスがよいという理由から、「参考統合シミュレーション1」に保護者の賛成が多かった。「シミュレーション3」にも賛成が多かったが、高浜地区が二つに分かれることになるので、高浜地区の方々の考えはどうなのだろう、という意見だった。統合には賛成だが、統合するのであれば高洲第一小と統合したいという保護者がほとんどであり、高洲地区同士の学校で統合したいという意見である。高洲地区と高浜地区とは、コミュニティや地域性の違いがあり、現在は学校同士の交流もないので、高浜地区の学校と統合することには不安が大きいようだ。統合に反対する声もあるが少数派であり、全体としては高洲第一小との統合を望む声が多い。

〈事務局〉

学校見学会では、学校の様子や通学路をよく見ていただき、様々な視点からのご意見やご感想、真摯な議論をしていただき、大変ありがたく思う。高洲第三小でざわつきを感じたという意見があったが、それは学校に必要な活気であると考え。子どもたちの人数が少ない

と、子どもたちを「管理」できてしまうが、子どもとは本来「指導」していくものである。学校では、多くの子どもがいる中で、教員は子どもたちいかに意思を伝え、子どもたちは集団の中でいかに育っていくか、ということが大切である。外国人の保護者がいるとうまくやっていけないのではないかという不安もあるようだが、言語と習慣にギャップはあるが、教育には非常に熱心な方も多い。子どもたち同士は、国籍に関係なく互いにかかわり合いながら、うまくやっていると聞いている。なお、子どもたち同士の切磋琢磨とは、競争心を煽ることではなく、子どもたち同士のかかわり合いの中で生まれる向上心を育みたいということである。教育においては、この向上心と好奇心とが大切であると考えている。

統合すると、現在避難所となっている学校がなくなってしまうのではないかと、という不安については、所管する部署と十分協議していきたい。

教員の資質と多忙化についてだが、個々の教員の資質は一概に「ある・ない」とは言えない。言えることは、教員もかかわりの中で育っていくということである。多くの教員がいれば、互いのマイナス部分を補いながら、プラス部分を伸ばすことができ、結果として、教員としての資質の向上につながる。現在、新規採用の教員が小規模校に配置され、1学年1学級で学年主任も務めなければならない状況になる場合があるが、教員もまた、ある程度の規模がある学校の中で、多くの教員とかかわり合いながら育っていくことが大切である。また、教員の多忙化について、教育委員会からの事務量の増加が教員の多忙化に繋がっているのではないかという方もいるが、事務量は昔に比べ減ってきていると思う。多忙化の原因の一つとして、学校が小規模校化することにより、事務処理の分担ができなくなっていることがあると考える。事務処理の内容は、学校規模が大きくても小さくても変わらないので、多くの教員がいれば分担ができるのに、小規模校では一人の教員にかかる負担が増える状況にある。例えば、小学校の教員は各教科の運営に係る担当を持たされるのだが、教員が少ないと、一人で複数の教科の担当になり、備品の管理や必要な備品・消耗品の購入計画を立てることになり、負担がかかることになる。1校当たりの教員数が増えれば、様々なメリットが出てくる。よりよい教育にしていきたいという気持ちは同じなので、教育委員会としてもどのような配慮をしていけるか、検討していきたい。

外国人の子どもが多い学校への援助については、学校見学会で高浜第一小の日本語指導を見て安心した、という意見もあったように、現状でも、日本語指導教員や地域ボランティア等で日本語の指導をしており、これは統合とは別に市として対応していく問題である。統合によって教育の質がよくなるのかという質問だが、子どもたちを育む上では、ある程度の規模があったほうがメリットが生まれてくるだろう。教員数についてだが、例えば、6学級規模の学校同士を統合して12学級規模の学校になったとすると、担任の人数は12人になり、1学校当たりの教員数は多くなる。元の学校の全ての教員を単純に合計した人数にはならないかもしれないが、それは教員が減るということではないと思う。学校に6学級しかないと

いうことは、担任はそれぞれの学年に1人、つまり学年主任としてその学年を1人で経営しなくてはならないが、12学級あれば、12人の担任がおり、1学年を2人で経営できることになる。第2次千葉市学校適正配置検討委員会の中で、最適な学校規模は18学級という意見があった。つまり、各学年に3人の教員がいることになるが、学年に3人いれば、様々な角度から子どもたちを指導することができる。なお、統合による環境の変化を和らげていくためには、確かに教員の配置が大事なので、「実施方針」にも示されているように、統合校へは市としても配慮した教員の配置を行っていきたいと考えている。どのような教員の配置が行えるのかを検討し、次回協議会で示したい。

〈高洲第三小学校保護者会委員〉

現在、高洲第三小は適正規模であり、中学校も適正規模である高洲第一中へ進学しているので、保護者からは「統合のよさを感じない」という意見がある。中学校が統合する可能性もあるので、統合して適正規模校となることにより、どのようなメリットが生まれるのかを示していただきたい。

〈事務局〉

今後、検討していく中で示していきたい。

イ 高洲・高浜地区の適正配置の方向性について

〈池田議長〉

次に、高洲・高浜地区の適正配置の方向性について協議していきたい。「実施方針」では、この地区の「中学校2校を1校に、小学校6校を3校にする」という方向性が示されているが、事務局からは、この地区の実状に応じたよりよい方向性があれば、それも含めて考えてほしいと説明されている。そこでまず、参考統合シミュレーションについて、もう一度事務局に説明していただいた後、委員の皆さんの意見を伺いながら、本協議会としての方向性を検討していきたい。

〈事務局〉

その前に先ほどの意見のあった保護者を対象とした統一アンケートについて答えたい。それぞれの団体の代表者の方には、協議会で示された資料を持ち帰り周知していただき、意見を吸い上げて協議会へ持ってくるということを繰り返す中で、適正配置についての共通認識を持っていただくことが大事だと考えている。しかし、団体それぞれの事情も異なるだろうから、事務局が統一したアンケート等を作成することは考えていない。それぞれの団体のやり方で、情報提供や意見の集約を行っていただきたいし、その際に教育委員会で協力できることは協力したい。また、本協議会で高洲・高浜地区の適正配置の方向性が示されれば、その時点でそれぞれの団体に説明に伺い、不安を解消していきたいと考えている。

(※ちなみに、他の協議会では、中学校区ごとにPTA・保護者会間で話し合い、統一のアンケート調査を実施したり、保護者会主催の報告会を開き、その中で教育委員会担当者の説明や質疑応答を行ったりした例がある。)

では、参考統合シミュレーションについて、再度、論点を絞って説明したい。

小学校については、

- ・シミュレーション1及び2は、「小学校6校を3校に」という方向性に基づいて統合した場合である。シミュレーション1は、最適な規模である高洲第三小を残し、高洲第一小と高洲第二小を、高浜第一小と高浜第二小と高浜第三小とを統合した場合である。シミュレーション2は、地理的に近い学校同士が統合した場合だが、統合校同士の学級数のバランスは悪くなる。

- ・シミュレーション3は、平成26年度に小規模な学校である高洲第一小・高洲第二小・高浜第二小・高浜第三小の適正化を優先的に考え、平成26年度に適正規模と見込まれる高洲第三小と高浜第一小は、そのままとしたものである。結果的に、小学校6校が4校になり、高洲地区は高洲地区の学校同士での、高浜地区は高浜地区の学校同士での統合となる。

中学校については、

- ・平成26年度、高洲第一中は適正規模と予想され、高浜中と統合すると、19～20学級やや大きめの学校になると予想される。一方、高浜中は、8～9学級と予想され、免許外の教員が必要かどうかの境目の規模である。ここが協議の論点となるのではないかと。その際、中学校は現状のままという方向性も考えられるだろう。

シミュレーション3を採用し、それぞれ中学校を残すと高洲地区と高浜地区とで、中学校が1校、小学校が2校となる。一つの小学校と一つの中学校では、人間関係が固まってしまうので、1中2小というのは自然な形である。結果的に、第3回協議会で出された「高洲地区と高浜地区とに分けて、先ず、小学校の統合から検討する」という提案につながるものとする。

次回の論点としては、まず、教員配置の要望について、市としてできることを示すということである。次に、高洲・高浜地区の適正配置の方向性について検討すること、つまり、「実施方針」に示されている「小学校6校を3校に、中学校2校を1校に」するという方向性ではなく、例えば、「先ずは小学校6校を4校に、中学校は2校のまま」といった方向性でまとめるのか、といったことである。